

# 図書館報

87号

平成23年10月6日発行

- 02 附属図書館長 芝木邦也  
カーボン vs. シリコン
- 03 旭川館長 奥山哲郎  
旭川館長に就任して
- 04 わたしの薦める1冊の本
- 13 図書館近況  
札幌館図書館実習  
北海道地区大学図書館職員研究集会  
函館館選書ツアーレポート
- 15 図書館統計
- 16 図書館からのお知らせ



## カーボン vs. シリコン

附属図書館長 芝木 邦也

大学図書館は、教育・学習活動を支援する学習図書館機能と学術研究活動を支援する研究図書館機能の二つの機能があります。学生諸君にとっては、授業のレポートを書くときの参考資料に囲まれた空間であり、また試験の準備では静かに勉強する空間でもあります。また気軽に雑誌・新聞などを読むことのできる空間です。教員にとっては、専門書や専門分野の雑誌など研究に不可欠な資料が存在する空間です。このように、図書館の空間要素は学生にとって、また教員にとって、大学生活に欠かせないものです。

しかし、今日の多くの人々にとって、インターネットが最も重要な情報源となり、時間と空間が変化しつつあります。書籍・資料の電子化、手続きの Web 化等による図書館利用環境の未来は、大きく期待すると同時に危ういとも思われます。様々な出版物がカーボン（印刷媒体）の世界からますますシリコン（電子媒体）へ移行する世界は、大学図書館にとって、これまでの歴史の中で最も重大な事態、つまり伝統的でありながらも変化しつつあるシリコンの世界に対応する図書館の存在を考えるとときが来ています。

本学図書館においても、全体の入館者数（学内者+学外者）は、平成18年度の476千人をピークに平成22年度では392千人に減少しています。この原因をどのように分析するかは、いろいろとあるかと思いますが、1つには、前述したデジタル・ネットワーク化の普及・発展が考えられます。このような状況の中、従来の図書館は各個人が効率よく読書・勉強のできる環境づくりのために私語の禁止、飲食禁止、そして携帯電話の使用禁止などのルールが運用されてきました。しかし、最近の図書館には、飲み物が許されたり、コミュニケーションのための会話・ノートパソコンの使用ができたりと利用者にとってより魅力的な知の快適空間が求められる時代になってきています。図書館の空間を静謐な読書空間（キーボードの使用不可）、学習空間（キーボードの使用可）、知的な出会い空間（会話可：たとえば、ラーニング・コモンズ（共同学習空間））などに分けてインターネット時代の多様な利用者の、多様なニーズにできるだけ応えていけるような柔軟な対応ができればと思っています。

今後の図書館の役割と使命に期待してください。そのために、図書館に関わる全ての人が柔軟性と協同性を持って図書館運営に携わることを期待しています。

(しばき くにや)

## 旭川館館長に就任して

附属図書館旭川館長 奥山 哲郎

本年4月、附属図書館旭川館館長に就任しましたが、原稿依頼を受けて、「本を読まない図書館長」と自虐的なタイトルをつけようかと悩むほど、本と親しく接することのない生活を送っています。小・中学校時代の夏休み「読書感想文」も本のあとがきから読み始める本嫌いの子どもでしたが、いくらかは本を読んだといえる時期が2度あります。

ひとつは大学時代。社会の動きや友人との交わりのなかで、社会科学の本や「生と死」にかかわる小説・随筆を内発的な欲求として自然と手に取っていました。同時代の著作物の内容に共感することも多くありましたが、学問として確立し、あるいは広く認められている古典の重みを強く感じたものです。自身が抱える具体的な問題を本が解決してくれることはめったにないことですが、よい本は解決への糸口を与えてくれます。「困ったときは古典に戻れ」とは誰が言った言葉でしょう。これは、専門の研究をすすめるうえでも絶えず意識しています。

もうひとつは子育て時代初期。3歳違いの娘ふたりが話がわかるようになった頃で、童話や絵本を読み聞かせようとの親としての思いがあったのでしょう。大学からの帰路、電車・バス乗り継ぎの待ち時間を利用して、駅前の本屋の児童図書のコーナーでよく立ち読みをしたのが懐かしく思い出されます。これがいいか、あっちがいいかと思いつつ悩んだ末に買い求めた本に、子どもたちが目を輝かせ、興味をもってくれたときに感じた喜びはこのうえないものでした。その頃の本は今も自宅

の本棚に並んでいます。バスの時間を忘れてまで時間かけて選んだ本にあまり興味を示さないこともよくありました。親が思うよい本と子どもが読みたい本のずれのわけが分からないまま、読み聞かせの時期は終わってしまいました。上の娘の小学校時代の体験を題材にして下の娘と作った絵本は私の密かな自慢です。娘たちの成長にどれほどの役に立ったものかは分かりませんが、ふたりの心のどこかに何かが蓄積されていることを願っています。

試され済みの古典を身に付け、現代的な課題に立ち向かう力を養い、そして心ゆたかに人間として成長するために、本、図書館の役割は大きいものがあります。大学の附属図書館と利用者の中心である学生のみなさんとの関係は、親と子の関係ではありませんが、「よい本、必要な本」を揃えるのは親の役割と同じです。利用者の「読みたい本、必要な本」とのずれが生じないよう心がけなければなりません。娘たちとの絵本づくりにあたる図書館活動も必要になってくるでしょう。より利用しやすい、役に立つ図書館づくりをめざしての利用者のみなさんとの協同の方策を模索しています。

館長に就任して半年ほどで、いまだ学習途上、あらためて、運営の難しさ、図書館職員のみなさんのご苦勞を知ったところです。利用者のみなさんの方へ顔を向けた図書館運営となるよう、関係委員会、職員のみなさんとともに努力していきます。

(おくやま てつろう)



# 特集 私の薦める1冊の本

## 楽しめる本



光文社 2009年

### 片桐 沙織=文

#### 『現実入門』穂村弘著 (光文社文庫)

寮生活、免許を取る、一人旅、髪を染める、バイト、ライブに行く…一気に世界が広がった大学生活。自分の世界を広げる一方、人付き合いが面倒になって、どうしようもない「プチ引きこもり生活」を送ったこと、ありませんか？

この本は、42歳にして「人生の経験値」が極端に低いと自負する歌人・穂村弘が美人編集者のサクマさんと共に、経験値を上げるべく色々な経験をしていくというエッセイです。「自分ひとりの世界での甘い空想や望みと現実との間のギャップ」にどうしても慣れることができないという作者。結婚、独り暮らし、髪型を変える、献血、占い、合コン…どれも「現実って感じ」で怖い。現実世界にぐいぐい引っ張っていくサクマさんと経験値を上げた末、最後に挑むのは一体何!? 「自分ひとりの世界」が充実しすぎている大学生のあなた、きっと共感できるはずです。

内容の面白さもさることながら、一つ一つの表現がユーモアたっぷり。私の頭の中も「ほむらさん」のエッセイのような楽しい言葉でいっぱいになりたいなあと思つたたび思います。

(かたぎり さおり/旭川市立北門中学校教諭 (旭川校卒))

## 楽しめる本



幻冬舎 2010年

### 竹内 康浩=文

#### 『東南アジア四次元日記』宮田珠己著 (幻冬舎文庫)

会社を辞めて旅に出た著者は、東南アジアの国々で、それはそれは驚愕の異文化に出逢います。しかつめらしい文化論ではなく、ごく普通の人々の飾らない (実はもう少し飾ってほしいくらいの) 生活とキッチュな趣味が、大量のギャグとともに噴出する旅日記の傑作。もっとまじめに「勉強」したい方には、梅棹忠夫の『東南アジア紀行』上下 (中公文庫) をお勧めしましょう。但し、1960年代の話なので、中身は古くなってしまいました。ボードレールと正反対の「旅への誘い」、これもまた大いに魅力的です。

(たけうち やすひろ/釧路校教授)

## 楽しめる本



新潮社 2003年

### 本橋 幸康=文

#### 『少年カフカ』村上春樹著

『海辺のカフカ』をめぐって、筆者である村上春樹氏が読者と交わしたメールの内容をまとめた本である。作品の構想や執筆過程を明らかにするとともに、自分のことばで読者と共に語りながら、作品の感触を確かめている氏の姿をみることができる。「僕としては、読者のみなさんに、解析とかそういうこと抜きで、総体としての物語を、情景を、なるべくそのままのかたちでぽっと受け入れてもらえればいいなと思っています。むずかしいことを訊かれても、僕にもよくわからないし (笑)。」と軽妙に語る氏のことばは、本を読むことの意味や楽しさを見つめ直すきっかけになるであろう。

(もとはし ゆきやす/釧路校准教授)



楽しめる本



メディアファクトリー  
2009年

伊藤 未宮=文

『ほしのこえ』大場惑著／新海誠原作 (MF文庫ダ・ヴィンチ)

切ない恋愛小説が好きな人、SFが好きな人にお勧めします。  
この作品は原作者・新海誠さんによるアニメーション映像作品「ほしのこえ」を大場惑さんがノベライズしたものです。同じ高校を目指している主人公のミカコとノボルは、ミカコが国連宇宙軍選抜メンバーに抜擢されたため、その約束を果たすことなく道を違えてしまいます。これは地上と宇宙に分かれてしまった二人が再び会うまでの物語なのです。

(いとう みく／札幌校2年)

元気の出る本



トランスビュー  
2003年

伊田 勝憲=文

『無痛文明論』森岡正博著

著者の森岡氏は哲学が専門で、最初の出会いはテレビでした。何か面白そうなことを言っているなと思い、すぐに検索してこの本を見つけました。文明は苦痛をなくす方向に進んでいる、しかし、気づいたら苦痛もないけれど喜びも失われていたという現状分析です。言われてみれば、本当の喜びに至るプロセスの中で、引き受けなければならない、回避してはならない困難や痛みがある……その覚悟をするだけでも随分と「生きづらさ」は軽減されそうです。どこか努力嫌いだっただ自分の考えもこの本で変わりました。分厚いけれど気楽に読めます。

(いだ かつのり／釧路校准教授)

元気の出る本



ポプラ社 2011年

越橋 香奈=文

『困ってるひと』大野更紗著

『困ってるひと』は、突然原因不明の難病を発症した著者大野更紗さんの“明るい”闘病記です。本の題名の通り、大野さんにふりかかる「困難」は壮絶なものです。検査地獄、麻酔無しのおべ、常に続く痛み、社会福祉システムとの戦い、友人とのすれ違い、孤独など記されている言葉だけでも凄まじい苦しみ・辛さ、生きることへの不安が伝わってきます。「自分がこのような状況に置かれたら・・・。」と考えずにはいられません。しかし、大野さんは自信を「難病女子」と称し、凄まじい様々な困難にユーモアたっぷりに立ち向かっていきます。世の中のどんな人も、困難がふりかかってくることもあると思います。落ち込んで立ち直れなかったり、自分が嫌になったりすることもあると思います。そんな時、『困ってるひと』を読んでほしいです。困難に立ち向かう大野さんの姿は、「どんな時も立ち上がる強さを教えてくれます。」

(こしはし かな／別海町立上春別小学校教諭 (旭川校卒))

# 特集 私の薦める1冊の本

## 社会を知る本



百田尚樹  
太田出版 2006年

石澤 伸弘=文

『永遠の0 (ゼロ)』 百田尚樹著

アメリカの同時多発テロ事件から10年が経とうとしています。事件当時、私は、この事件が「Kamikaze Attack」として取り上げられたことに大きな戸惑いを覚えました。私は戦争肯定論者ではありませんが、太平洋戦争時の「神風特攻作戦」とこの事件を同格に捉えられることに抵抗を感じざるを得ませんでした。本書は奇しくもこの疑問点を払拭してくれる一冊となりました。学生時代に是非読んでもらいたい本の1つです。

(いしざわ のぶひろ/岩見沢校准教授)

## 社会を知る本



日本放送出版協会  
2000年

高城 望=文

『サダコ: 「原爆の子の像」の物語』  
NHK 広島「核・平和」プロジェクト著

毎年、8月になると「ああ、またこの日がやって来たのだ」と感じる人は少なくないだろう。日本人なら、尚更。学校の授業や、修学旅行などで原爆について学んだ人も多いはずだ。そして、千羽鶴を「原爆の子の像」に供えた人も少なくないかもしれない。では、その少女にまつわる真実の話を知っている人はどのくらいいるのだろうか。少女を題材にした話が海を越え様々な場所で伝えられているのは知っているだろうか。原著では、様々な人の視点から少女の話、原爆の話が語られている。新たな事実を知ることができると同時に、世界中から戦争、原子力が消えないことのふがいなさも覚える。

そして我々は今、形は違えど被爆という恐ろしい問題に直面にしている。生活の豊かさが守れればそれで幸せなのだろうか。一人の子どもの命も救えないような事態になることより大切なものなんてあるのだろうか。誰か任せにするのではなく、人類一人一人が考えなければならぬ時が来ているのである。

(たかしろ のぞみ/札幌校4年)

## 社会を知る本



岩波書店 2003年

遠藤 紗央理=文

『韓国の若者を知りたい』 水野俊平著 (岩波ジュニア新書)

昨年から続く K-POP ブームは今や社会現象となり、当たり前のようにテレビから韓国語が聞こえ、音楽番組からバラエティ番組、そして本屋さんに並ぶ雑誌までもが韓国特集でいっぱいです。幅広い年齢層に韓国文化が受容され、異文化に対して理解を深めている今日この頃ですが、みなさん本当に韓国や韓国人について理解していると自信を持って言えますか? この本「韓国の若者を知りたい」には、私たちと同じ現代を生きる韓国の若者が、どのような環境で勉強し、青春して生きているのか、日本のテレビ番組からの情報だけではわからないリアルな姿が描かれています。韓国の若者のありのままを記録した親近感のわく内容であると同時に、日韓関係ばかりではなく、世界中のあらゆる国とわかり合うために大切な心得がたくさん詰まった一冊なので、ぜひ一度この本を手に取り、より一層の異文化理解を深めてください。

(えんどう さおり/旭川校4年)



## 教養が身につく本



岩波書店 2011年

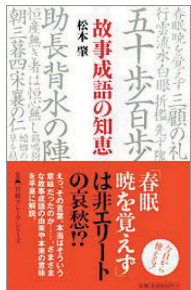
池田 保夫=文

『火山と地震の国に暮らす』 鎌田浩毅著

1月におきた九州霧島の新燃岳の噴火、3月におきた東北の大震災と大津波、このように日本は大きな地球変動のまっただなかにあります。そうした大地の上で生きる我々は、こうした自然災害からどう身を守ったらよいか。この本は、自然とまくつきあうには、巨大な地球を丸ごと捉える「長尺の目」と、人間をはるかに越える力への「畏敬の念」をもつことが必要であることをといている。科学を正しく知ることが災害から身を守り、科学を減災にどう活かすのか、科学教育のあり方についても示唆に富む地球科学者の熱い思いが込められたエッセイだ。

(いけだ やすお/釧路校教授)

## 教養が身につく本



日本経済新聞社  
2011年

後藤 秋正=文

『故事成語の知恵』 松本肇著 (日経プレミアシリーズ129)

「過ぎたるはなお及ばざるがごとし。」この言葉は、過ぎ去った過去のことはあれこれ思い悩んでも仕方がない、という意味だと思っていないだろうか。それは少し違う。「物事の程度を超えたゆきすぎは不足していることと同じようによくないことである。」(三省堂『スーパー大辞林』)というのが正しい。このように、わかっていると思いきこんでいる故事成語は多い。では「春眠暁を覚えず」や「折檻」は、本来どのような意味だったのだろうか。

この新書は「五十歩百歩」「三顧の礼」から始まって、「先ずかい隗より始めよ」まで40余りの故事成語を取り上げて、親しみやすい解説を加えている。

「古典を学ぶということは、生きていく知恵を身につけるということでもある。」(「本書あとがき」)。だまされたと思って、一度手にとってごらんください。ちょっとした故事成語通になった気分が味わえるばかりでなく、人生の知恵も得られますから。

(ごとう あきのぶ/札幌校教授)

## 教養が身につく本



筑摩書房 2008年

鈴木 啓太=文

『読み上手、書き上手』 齋藤孝著(ちくまプリマー新書)

大学生なら本を読みたい。大学生なら新書を読みたい。でも、小説は読むけど新書はちょっと…という人は多いはず。だって新書って難しそうなんだもん。それなら、読みやすいものから始めればいい。

ということで、今回オススメする本は、齋藤孝著『読み上手、書き上手』(ちくまプリマー新書)。ちくまプリマー新書は、中高生向けに書かれているので、どれも読みやすい。しかし内容は侮るなかれ、とつてもあなたの役に立つのです。そして、齋藤孝の本はどれも読みやすい、わかりやすい。あなたにとってのドラえもんとなる一冊です。(決してあなたがのび太君だという意味ではありません)

「この本あんまり興味わかないよ〜。」というあなたは他のちくまプリマー新書もオススメです。いや、他の新書でもいい。いやいや、新書じゃなくたっていいさ。もう本なら何でもいい。とにかくあなたが心惹かれるタイトルの本を読んでみて！大丈夫、読み方なら齋藤孝が教えてくれる。

(すずき けいた/札幌校4年)



# 特集 私の薦める1冊の本

## 教養が身につく本



新人物往来社  
2009年

高畠 朋美=文

『日本史に出てくる官職と位階のことがわかる本』新人物往来社編

“読んで字のごとく”まさに題名どおりの本。「官職」と「位階」って何だっけ？ どう違うの？日本史好きの私でも、タイトルを読んだ瞬間とまどった…。でも本をひらいてみればそんな難しいことでもない。日本史の授業で聞いたことのある言葉がずらり。図解を交え、日本史の授業だけでは理解し切れない、いや説明されなかったことが書いてある。塾で講師をしている人などにはお役立ちの一冊なのではないだろうか。本は、手に取ると意外と分厚い…。しかし三分の一は人物事典。気になる項目だけでも読んでみては？ちなみに私は中世編から読み始めた。

(たかばたけ ともみ/函館校3年)

## 教養が身につく本



美術出版社 2009年

中村 知美=文

『現代アート事典：モダンからコンテンポラリーまで…世界と日本の現代美術用語集』美術手帖編

「現代アートはむずかしい」と感じている人はきっと多いと思います。そもそも、現代アートとは何なのでしょう。「現代アート事典」には、現代アートを知るためのシンプルなキーワードが書かれています。本を開くと、カラフルな写真と魅力的なデザインとともに、さまざまな現代アートが紹介されています。「これは現代アートだったんだ」と思うものもあれば「これってアートなの？」と疑問に感じるものもあるかと思います。アートとは、時代の中で生まれるものです。紹介されている現代アートには、誕生した理由や社会背景も書かれているため、私たちの現代アートへの理解を深めてくれます。現代を生きる私たちにとって、現代アートを知ることは、とても大切なことだと感じました。

(なかむら ともみ/函館校2年)

## 衝撃を受けた本



阪急コミュニケーションズ 2010年

伊東 未宮=文

『20歳のときに知っておきたかったこと：スタンフォード大学集中講義』ティナ・シーリグ著

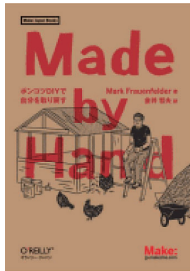
勉強やサークルやバイトや・・・今何かを成そうとしている人、その活力をくれる言葉がたくさん載っているのがこの本です。著者であるティナ・シーリグさんの体験談や周囲の人々の価値ある言葉が力強く読者を引っ張ってくる。題名通り、今20歳前後の時代を生きている大学生に是非読んでもらいたいです。これを読んだら、何かしたくなってくる！！

(いとう みく/札幌校2年生)





## わくわくする本



オライリー・ジャパン  
2011年

## 倉重 哲二=文

『Made by Hand』 Mark Frauenfelder 著

05年に創刊された雑誌『MAKE:』(日本語版は06年創刊)には、成層圏まで気球を飛ばして地球を撮影する人たちから古いビデオデッキを改造してタイマーで動く猫の給餌機まで個人で制作された様々なモノたちが掲載されている。今回紹介する『Make by Hand』は、『MAKE:』の編集長である著者が、様々なアルファ・メイカー(モノを設計して自分でつくるを実践している人たち)に触れ合いながらいつしか自分も、大量生産された既製品を消費する生活から、必要があれば自分でモノをつくったり、直したりする生活へ、だんだんとモノたちとの関わりを深めていくようになった彼の記録になっている。

ネットワークやデジタル機器の発展は、個人のものづくりを変革しようとしている。パーソナル・ファブリケーション—個人が個人のために、唯一のモノをデザインして、つくる行為—つまり、モノを作る楽しみをもう一度、個人の手に取り戻そうというムーブメントが興っている。

わくわくすることは、身近なところにあるのだと感じる1冊。

(くらしげ てつじ/岩見沢校講師)

## 自分の考えを深める本



新潮社文庫版 1960年

## 阿部 宏行=文

『裸の王様』 開高健著

この本は、美術を志す人、教師を志す人、そして、おとうさん、おかあさんになる人に是非、読んでほしい一冊です。子どもが絵を描くってどういうことか、それを支える大人の人の大切さなどを教えてくれます。

「ぼく」と「太郎」の登場人物を軸にして、様々な人間模様が繰り広げられます。子どもの心理などにも興味のある人にもお勧めします。昭和32年に芥川賞を受賞した短編小説です。

(あべ ひろゆき/岩見沢校准教授)

## 人生色々だなあと感じる本



ユーメイド 2011年

## 太田 健介=文

『この世でいちばん大事な「カネ」の話』 西原理恵子著

実体験に基づいたギャグ漫画等を描く、「お笑い漫画家」の西原理恵子さんが自身の波乱万丈な人生に基づいて、「お金の大切さ」や「働くこと」について書いています。この本は、子供でもきちんと読めるようにということで書かれた本ですが、大人にとっても十分読み応えのある内容ではないでしょうか。

彼女の体験が基になっているので、現在の社会情勢等をあまり把握できていなく、彼女の主観で書かれている点もあり、ツッコミたくなる部分も多々あります。しかし、「お金がない」ということで引き起こされる様々な「負の連鎖」については、強く心に響きました。

現在就職活動中の学生やこれから控えている学生など、働くことについて悩んでいる学生の方にも、読んで頂けると良い一冊ではないでしょうか(そういう私が未だに内定をもらえていませんが…)。

「仕事で自己実現」「社会の為に働く」など、就職サイトに掲載されている企業の美辞麗句に騙されず、「生活するお金を稼ぐ為に働く」という、働くことの根本的な理由を再確認することができるのではないのでしょうか。

良かったら読んでみて下さい。

(おおた けんすけ/函館校4年)

# 特集 私の薦める1冊の本

## 就職活動をする前に読む本



中経出版 2010年

久保 優太=文

『**本質をつかむ思考法**』 伊藤真著

就職活動をしたことのある人、または現在行なっている人がこの本を読んでみたら、多くの人が「就職活動につながるものがたくさん書いてある」と感じるのではないのでしょうか。

この本には就職活動のことは全く書いていません。しかし、就職活動は「これが正解だ。」とはっきり感じられることがほとんどありません。そのため、就職活動に置き替えてこの本の内容を考えると、「今自分がやるべきことは何なのか」としてもわかりやすく教えてくれます。またこの本は世間が、まるで世界の理だと言わんばかりに多用する「常識」が「ひとつの危険な思想」であることに気づくための道具でもあると思います。

(くぼ ゆうた/函館校4年)

## 子どもの育ちを考えさせる本



秋田書店 2010年

二井 仁美=文

『**愛とときずな 虐待ケアへの挑戦**』 椎名篤子原作/ごとう和漫画

生後6年間、家に閉じ込められていたために、トイレにも行けず着替えもできず、物の名前と文字が繋がらず、「舞はバカです」とみずからの頭を床に打ちつける少女舞。児童精神科の入院病棟の医師、保育士、病院内に設置されている地域の小中学校の分教室の教師等が、そのような舞をチームで育てていく感動のドラマです。

椎名篤子さんの『「愛されたい」を拒絶される子どもたち～虐待ケアへの挑戦～』(大和書房)を原作として、2009年に月刊漫画誌『フォアミセス』に連載されました。私は、この連載を読むために毎月同誌を買い、何度も涙しました。北海道教育大学の学生の皆さんにぜひ読んでほしい作品です。

原作者椎名さんは、「不適切な養育 (maltreatment)」を受けてきた子ども達を治療する現場を丁寧に取材し、maltreatmentにより育てられた人の声に耳を傾け、そのような状態にある子どもを救うために具体的な行動を展開してきた、人間愛に溢れたライターです。子ども虐待の問題に関して、心を揺さぶるたくさんの著作を発表されてきました。

この漫画を読みさらに学びたくなった方は、原作とともに、『親になるほど難しいことはない「子ども虐待」の真実』、『凍りついた瞳が見つめるもの 被虐待児からのメッセージ』等、椎名さんが執筆された他の本もお読みになることをお勧めします。

(にい ひとみ/旭川校教授)

## 小学校社会の授業が見える！本



小学館 2011年

村田 文江=文

『**五円玉の授業：若い教師を育てる**』 田山修三著

「小学校社会の授業が見える！」ってホントです。本書は「よくわかるDVDシリーズ」なので、絶対に保証します。みなさんは、小学校の授業、特に社会の授業を覚えていますか？ そう、ほとんど記憶にありませんよね。それに社会は暗記のイメージ…。でも、本書のDVDを視聴すると眼からウロコが落ちること間違いなし。ところで、五円玉で何を学ぶの？ お金なら社会科かなあ…。ヒントは五円玉には「戦後日本の復興」と「平和の願い」が込められている…。さあ、早く読んでみましょう。

(むらた ふみえ/釧路校教授)



## 教育学の基本書



農山漁村文化協会  
2010年

### 高嶋 幸男=文

『場の教育：「土地に根ざす学び」の水脈』（シリーズ地域の再生12）  
岩崎正弥・高野孝子共著

本書の第1部「場の教育の可能性」の執筆者岩崎氏は、明治以降の近現代日本の学校教育が、〈地元を捨てさせる教育〉であったとの思いを一つの出発点に、それと違うもう一つの系譜〈地域（土地）に根ざした学び＝場の教育〉を、その歴史から分析・考察し、自から身をおき暮らす土地の価値を発見し、それに依拠した教育つまり「場の教育」の可能性を論じている。高野氏執筆による第2部は、「場の教育」の実践的検証である。

今、過疎化あるいは少子化などの名のもとでへき地等の学校が閉校となり、「地域」が減衰する時代にあって、あらためて「地域・場の教育(Place-Based Education)」を考える一冊として薦めたい。

(たかしま ゆきお／釧路校教授)

## アイデアを生む本



阪急コミュニケー  
ションズ 1988年

### 松崎 邦守=文

『アイデアの作り方』 ジェームス・W・ヤング著

「60分で読めるけど一生あなたを離さない本」というキャッチ・フレーズに惹かれ、思わず手にした。中学校教員5年目、生徒会活動の企画担当をしていた時期であった。「大切なことは、第一に原理であり、第二に方法である」。そして、「アイデアとは、既存の要素の新しい組み合わせ以外の何物でもない」など、アイデアづくりに必要にして十分な5つのヒントが示されている。今なお、「なるほど、そうだな〜。」ということがある。

(まつざき くにもり／釧路校教授)

## 表現力を養う本



岩波書店 2007年

### 橋本 聡一郎=文

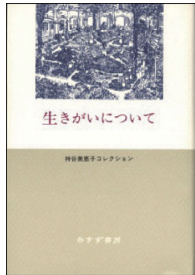
『演出家の仕事』 栗山民也著 岩波新書 2007年

よく、教師は五者たれと申しまして、五者の中には「役者」というものが含まれます。それ故に、栗山民也の『演出家の仕事』の演出は、教育に置き換えても参考になります。この本は、本校教職大学院の講義で福井雅英教授に紹介していただいた本の中の一冊です。始めの1頁は「手のひらを広げてみてください。次に、その手のひらを強くぎゅっと握ってみてください。はい、では開いて、握って、……それを繰り返して。……では、次に、その握った手を、ゆっくりと三分間かけて開いてみてください」と始まります。これは、演技の練習なのだと思います。何のためにするんですか、こんなこと。答えを聞くとなかなか奥が深い。「握った手のひらをゆっくりと開くまでのあいだに、実はそこに隠されているさまざまな表現が無数にあることを、発見しなければいけません」ということだそうです。教師の仕事も似ていると感じました。同じ単元の授業でも、さまざまな発問、表現といった表現があります。それを一度ゆっくり考える機会が必要であると感じました。演出家のための、役者のための、そして教員のための一冊です。是非、一度お手にとってゆっくりとご覧ください。

(はしもと そういちろう／教職大学院1年(旭川校))

# 特集 私の薦める1冊の本

## 感銘を受けた本



みすず書房 1980年

## 古屋 光一=文

『生きがいについて』 神谷美恵子著

さりげないタイトルの本である。このわかるようで、よくわからないものに、著者は静かに目を向けていく。生きがいをなすくと、人は「どうして生きていかなければならないのだろうか、なんのために」と自問するという。これは誰のことだろうか。自分を直接には表現しないようにしながら、実は著者自身のことのように思える。医師、研究者、教育者、著述家として、驚くほどの活躍をしながらも、そこに至るまでの苦悩と、それをこえてきた彼女だから書けることなのだ。

そして、本書の中心はこうした生きがいの定義や分析などにあるのではない。「毎日の生活を生きるかいあるように感じさせているものは何であろうか」「ひとたび生きがいを失ったら、どんなふうにしてまた新しい生きがいを見いだすのだろうか」。この問いに対する解答が本書である。すなわち、再生への道しるべを示しているのである。今改めて、読み返す名著である。

(ふるや こういち/旭川校教授)

## 悩みに答える本



光文社 1981年  
※電子書籍版で入手可能

## 関谷 祐里=文

『青春をどう生きるか』 加藤諦三著

この本は、たしか私が大学生くらの時に読んだ本です。自分が何をしたいのか、どう生きたいのか、と悩みながら生きていた頃にこの本と出会いました。最近、久々にこの本を開いて、

「二年遅れたら二年長生きすればいい」、

「おれの学問をやろう」、

等々の言葉に線を引きながら読んだ若い頃を思い出したので、学生のみなさんにも推薦いたします。

(せきや ゆり/釧路校教授)

普遍的文化教養が  
身に着き、元気が  
出て、体が締まっ  
て、人間性に落ち  
着きと幅広さが出  
る本



小学館 2005年

## 渡部 謙一=文

『五重塔 幸田露伴作』(齋藤孝の音読破 4) 齋藤孝注・編

とかく、「ゆとり教育」を発端にした日本人の心身変化が問題になっている現代にもっともふさわしい書籍。おそらく今の大学生の多くは幸田露伴自体知らないのではと思いますが、だまされたと思ってこの本を読んでください。というか、これをぜひ声に出して音読してみてください。それも大声で「怒唱」してみてください。時代の変遷における淘汰の波にも吞まれることなく、現代に息づいている「普遍美」をこの文から感じられるはず。岩見沢校内の全ての学生に対して、それぞれの「生きる上でのセンス」を直撃する、骨太で歯ごたえのある文章です。はじめは苦しいほどの頑固な文と感じるでしょうが、そこを乗り越えた人にしか分からない、強いエネルギーを身につけることができるはず。音楽等の練習室を使っているから、ぜひ皆さん「怒唱」してみてください!!

(わたなべ けんいち/岩見沢校准教授)



## 札幌館図書館実習生受入

附属図書館札幌館では、7月27日(水)から8月4日(木)までの土日を除く7日間にわたり、北海道武蔵女子短期大学の図書館司書課程の学生3名を受け入れて「図書館実習」を行いました。

日程の前半はサービス部門の貸出・返却等のカウンター業務、相互貸借、情報検索等について実習してもらい、後半は管理部門の図書館資料の受入・目録・分類・装備・配架までの一連の処理について実習してもらいました。

実習後に、実習生から、「大学の授業では体験することのできない実際の図書館業務を行うことで司書という仕事に対する理解が一層深まりました。」「図書館の業務が実際どういうものか具体的に知ることができ、利用者の立場からでは見えづらいサービスについても触れることができ、大

変勉強になりました。」「大学の授業だけではわからなかった「1冊の本にどれだけ人の手が加えられているか」ということを知り大変さを学ぶことができました。」などの感想が寄せられました。実習生にとっては、実際に様々な業務を体験したことで、大学の授業で学んだ知識をさらに深めることができたのではないかと思います。



## 北海道地区大学図書館職員研究集会開催

8月19日(金)に第54回北海道地区大学図書館職員研究集会が本学で開催されました。この研究集会は、北海道地区大学図書館職員の資質を高め、図書館業務の円滑化並びに運営の向上に資することを目的として、毎年持ち回りで札幌市内または札幌近郊の北海道地区大学図書館協議会加盟館で開催されており、今年度は本学が当番館になりました。

当日は協議会加盟館の図書館職員だけでなく、短期大学図書館や専門図書館からも参加があり、あわせて42の機関から114名もの多数の方が参加されました。

研究集会は、午前が講演一題、午後は事例報告2例とテーマ別分科会のプログラムで行われました。講演は、大学図書館における館内飲食等のマ

ナーや図書館の問題利用者について各所で講演されている東京農業大学教授の中野捷三先生から、演題「「問題」利用者—主体と客体」についてお話いただきました。日頃利用者と接しているサービス業務担当の図書館職員にとっては大変参考になる内容でした。また、事例報告の1例目は道内で初めてICタグ付き自動書庫を導入した北海道情報大学の事例が報告され、2例目として本学図書館の「図書館活性化プロジェクト」についての報告がありました。最後のテーマ別分科会は、事前にテーマ別に参加希望者を募り、8~14名程度の少人数のグループに分けて行われ、それぞれのテーマについて活発な議論や他大学との情報交換がなされ、大変有意義な会となりました。



## 学生選書ツアーレポート (函館館)

函館館では、この度初めて読みたい本や図書館に置いてほしい本を、学生・院生の皆さんが直接書店に行き自ら手に取って選ぶ、『学生選書ツアー』を実施しました。

7月14日に5名、15日に7名の方が参加し、楽しそうな雰囲気の中、約70冊の本を選んでいました。



書店で読みたい本を見つけて嬉しそうな様子、本選びに迷う様子などが見られ、企画して良かった、と実感しました。

一方で、書店の規模が大きくないため、レポートや論文に使いたい本が少なかったという意見も少なからず寄せられました。

また、実施時期については、テスト前ということもあり、参加を見合わせた人も多かったかということもあり、検討の必要性を感じました。

さらに、選書者の専攻分野がもっとバラエティに富んでいると、より選書の幅も広がるという意見があり、実施時期が異なると、違う専攻の学生が参加することにもつながると考えられます。



なお、今回選書した本は、10月にカウンター付近で展示する予定です。

参加者のお薦めコメントも併せて展示します。面白いコメントや素敵なイラストもあり、学生・院生の視点で選ばれたので、読みたいと思う本が見つかるのではないのでしょうか？

### 今回選ばれた本の一部

- ・大正ロマン手帖 (石川桂子編)
- ・日本の神々 神徳・由来事典 (三橋健編著)
- ・ストーリー・セラー (有川浩著)
- ・世界で一番美しい元素図鑑  
(セオドア・グレイ著)
- ・本質をつかむ思考法 (伊藤真著)

ほか約70冊

レポートに役立つような本から小説まで様々な本が選ばれています。

ぜひ、手に取ってご覧ください。

実施日：7月14日 (加藤栄好堂美原店)

7月15日 (三省堂書店函館営業所川原店)

## 2010年度図書館統計

## 附属図書館利用統計(平成22年度)

項目	全館	札幌館	函館館	旭川館	釧路館	岩見沢館	
開館日数(日)		341	321	334	346	320	
内訳	開館日数(平日)		235	221	234	238	224
	開館日数(休日)		106	100	100	108	96
入館者数(人)	391,974	118,484	70,584	93,553	68,093	41,260	
内訳	入館者数(学内)	381,995	116,868	69,004	89,359	65,673	41,091
	入館者数(学外)	9,979	1,616	1,580	4,194	2,420	169
貸出冊数(冊)	88,829	19,978	21,679	21,380	18,201	7,591	
相互利用	文献複写(受付)(件)	3,171	1,554	565	465	344	243
	文献複写(依頼)(件)	4,343	1,044	1,568	737	756	238
	図書貸借(貸出)(冊)	2,571	763	532	427	472	377
	図書貸借(借用)(冊)	2,689	624	642	676	631	116

## 附属図書館所蔵統計

平成23年3月31日現在

項目	全館	札幌館	函館館	旭川館	釧路館	岩見沢館	
所蔵数(冊)	985,464	274,465	209,677	174,659	189,409	137,254	
内訳	和書	871,878	238,171	186,234	154,046	169,494	123,933
	洋書	113,586	36,294	23,443	20,613	19,915	13,321
分類内訳	総記(和書)	98,285	34,616	29,726	6,457	16,315	11,171
	総記(洋書)	12,935	3,404	1,345	1,440	4,507	2,239
		111,220	38,020	31,071	7,897	20,822	13,410
	哲学(和書)	60,970	15,060	14,890	12,181	10,923	7,916
	哲学(洋書)	13,004	3,748	2,684	3,394	2,085	1,093
		73,974	18,808	17,574	15,575	13,008	9,009
	歴史(和書)	91,374	25,676	19,104	17,212	19,669	9,713
	歴史(洋書)	7,613	2,139	1,379	1,824	1,482	789
		98,987	27,815	20,483	19,036	21,151	10,502
	社会(和書)	257,721	72,085	47,385	51,042	49,771	37,438
	社会(洋書)	24,632	9,096	5,240	4,762	3,621	1,913
		282,353	81,181	52,625	55,804	53,392	39,351
	自然(和書)	94,287	26,438	16,358	19,996	19,237	12,258
	自然(洋書)	14,187	5,111	2,539	3,402	1,931	1,204
		108,474	31,549	18,897	23,398	21,168	13,462
	工学(和書)	29,234	7,761	7,004	4,780	5,987	3,702
	工学(洋書)	1,725	878	176	234	257	180
		30,959	8,639	7,180	5,014	6,244	3,882
	産業(和書)	21,219	6,490	4,299	3,588	3,954	2,888
	産業(洋書)	972	498	94	174	110	96
		22,191	6,988	4,393	3,762	4,064	2,984
	芸術(和書)	69,671	12,438	12,000	12,725	11,186	21,322
	芸術(洋書)	6,796	1,870	1,119	920	578	2,309
		76,467	14,308	13,119	13,645	11,764	23,631
	語学(和書)	34,379	10,389	8,150	5,620	6,526	3,694
	語学(洋書)	13,195	4,469	3,905	1,694	1,772	1,355
	47,574	14,858	12,055	7,314	8,298	5,049	
文学(和書)	114,738	27,218	27,318	20,445	25,926	13,831	
文学(洋書)	18,527	5,081	4,962	2,769	3,572	2,143	
	133,265	32,299	32,280	23,214	29,498	15,974	



# LIBRARY NEWS 附属図書館からのお知らせ



**懸賞論文 & 小説募集**

「第4回」北海道教育大学附属図書館

＜優秀賞副賞＞図書カード 5万円  
 ＜佳作副賞＞図書カード 2万円  
 小説部門を募集!

応募期間 2011年10月3日(月)～2012年1月9日(月)

【応募資格】本学学生(学部学生、大学院生、留学生等)

【応募要領】1. 字数 I「小論文」及びII「感想文」部門3,000字以上、III「小説」部門5,000字以上  
 2. 電子ファイル(Wordまたはテキスト形式)を下記メールアドレス宛てに送付してください。  
 3. 作品の1行目に、キャンパス名・課程名・学年・学籍番号・氏名・連絡先(電話番号・メールアドレス・住所)・部門を記入し、2行目に、タイトル、対象図書の書名・著者名・出版社を記入してください。(III「小説」部門への応募はタイトルまで)  
 4. 応募作品は1人3編(各部門1編)までとし、応募者自身のオリジナルな未発表作品とする。

【作品公表】受賞作品は図書館報および附属図書館ウェブサイトに掲載します。

【応募・問合せ先】somu-lib@j.hokkyodai.ac.jp

注! 優秀賞副賞 図書カード 5万円  
 佳作副賞 図書カード 2万円

## 第4回附属図書館懸賞論文 & 小説募集

「本との出会いを大切に、素晴らしい本との出会いを皆に伝えてほしい」という趣旨のもと、第4回附属図書館懸賞論文・小説を募集しております。優秀者には賞状および豪華賞品を贈呈いたします。また、応募者全員に参加賞を進呈しますので、奮って応募ください。

- 【課題】I「小論文」部門…各自の関心に基づき対象図書を選んで、題材とした小論文  
 II「感想文」部門…読書感想文もしくは、本を題材としたエッセイ  
 III「小説」部門…短編小説(ジャンルは自由)  
 ※I及びIIの対象図書のジャンルは問いません。

【部門】I「小論文」部門、II「感想文」部門およびIII「小説」部門  
 【応募期間】2011年10月3日(月)～2012年1月9日(月)  
 【応募資格】本学学生(学部学生、大学院生、留学生等)  
 【応募要領】

1. 字数 I「小論文」及びII「感想文」部門3,000字以上、III「小説」部門5,000字以上
2. 電子ファイル(Wordまたはテキスト形式)を下記メールアドレス宛てに送付してください。
3. 作品の1行目に、キャンパス名・課程名・学年・学籍番号・氏名・連絡先(電話番号・メールアドレス・住所)・部門を記入し、2行目に、タイトル、対象図書の書名・著者名・出版社を記入してください。(III「小説」部門への応募はタイトルまで)
4. 応募作品は1人3編(各部門1編)までとし、応募者自身のオリジナルな未発表作品とする。

【作品公表】受賞作品は図書館報および附属図書館ウェブサイトに掲載します。  
 【応募・問合せ先】somu-lib@j.hokkyodai.ac.jp

### 全館共通

**OPACに表紙画像を追加しました!**  
 蔵書検索(OPAC)の検索結果詳細画面に、図書の表紙画像が表示されるようになりました。画像には紀伊國屋書店BookWebへのリンクが設定されています。BookWebから目次・著者情報・図書の内容などのより詳しい情報を得ることができるので、図書選びの参考になると思います。

**貸出履歴を確認できます!**  
 マイライブラリで過去5年分の貸出履歴が確認できるようになりました。以前に借りた図書の情報が分からなくなっても調べることができるので便利です。教育情報システムのIDとパスワードでログインしてください。

**Westlaw トライアル**  
 判例・法令データベース「Westlaw Japan」(日本法)および「Westlaw International」(英米法)のトライアルを行います。期間は2011年10月1日～12月31日まで。

### 構成館 Topics

**函館館**  
 現在、カウンター付近にて学生選書ツアーの図書を展示しております。勉強や就職活動に役立つ本・息抜きとして読める話題の本や小説など、学生目線で選んだ図書が揃っており、選書者のおすすめコメントもあわせて展示しております。貸出もできますので、どうぞ手に取ってご覧ください。

**旭川館**  
 図書館選書ツアー参加者(旭川校学生限定)を下記の要領で募集します。図書館に入れてほしい本を自分で選んでみませんか?申し込み・問い合わせはカウンターまでお願いします。  
 日時:11月12日(土)・11月13日(日)  
 場所:ジュンク堂書店(フィール旭川内)  
 定員:各日7名(合計14名)

**釧路館**  
 ■11月に学生選書ツアーを行います。実際に書店へ足を運び、研究書等図書館に置く本を選びませんか?  
 ■図書館サポーター募集中。館内案内掲示・図書紹介他、みなさんの手でより便利な図書館にしましょう!  
 詳しくはカウンターにお問い合わせください。

